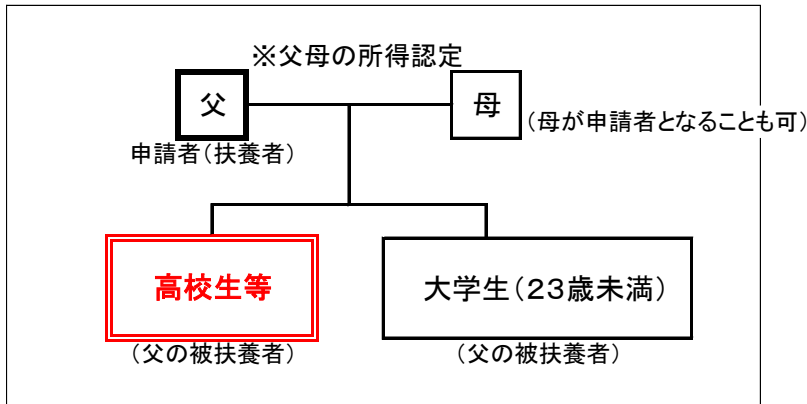


別紙A 「扶養関係図」

☆ 申請者と扶養者の関係による「第1子」「第2子以降」の判定例

【例1:基本パターン】

保護者等が父母で、父が扶養している場合

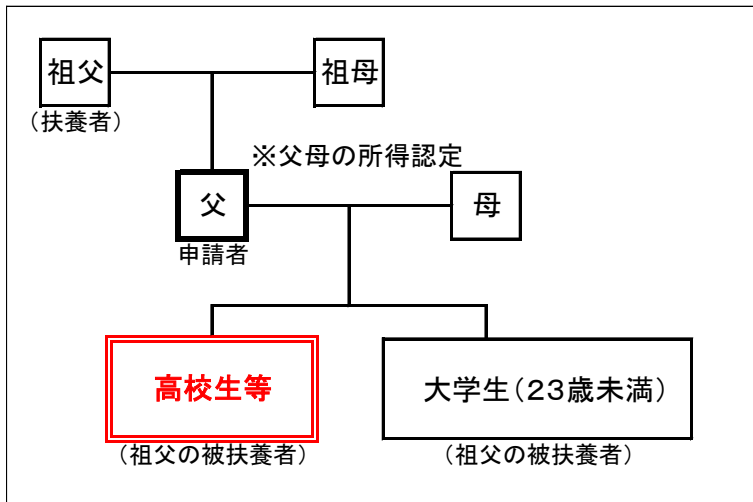


高校生等⇒第2子

(他の例)
「大学生」が母、「高校生等」が父に扶養されている場合も「第2子」と判定

【例2:保護者等と扶養者が異なるパターン】

保護者等が父母であるが、祖父が扶養している場合



高校生等⇒第1子

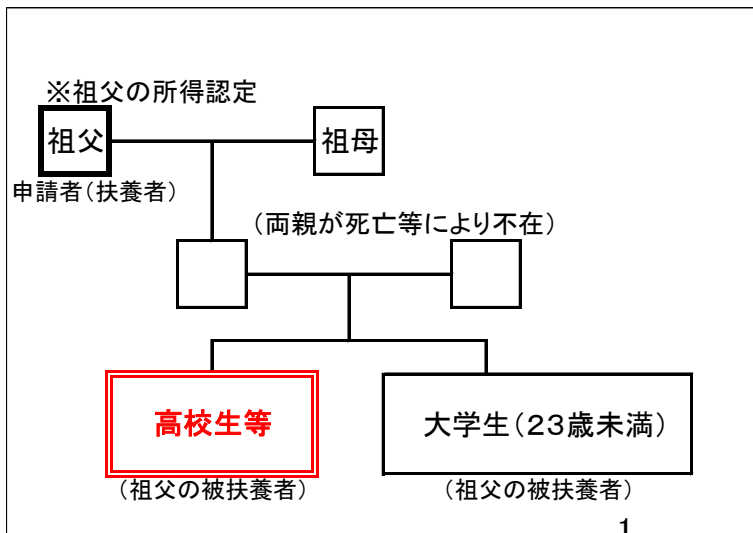
※「高校生等」と「大学生」は父母に扶養されていないとみなし、「第1子」と判定



「高校生等」と「大学生」両方が父母に扶養されていないければ、第2子にならない

【例3:主たる生計維持者が祖父のパターン】

父母がおらず、申請者(主たる生計維持者)が祖父の場合



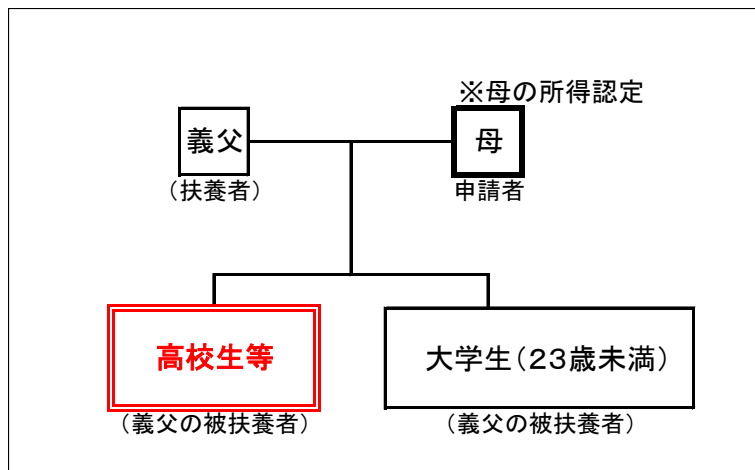
高校生等⇒第2子

※「高校生等」と「大学生」は主たる生計維持者である祖父に扶養されているので、「第2子」と判定

(他の例)
主たる生計維持者が叔父等の場合で、叔父の子(いとこ)が大学生で叔父に扶養されていても、生徒の兄弟姉妹ではないため、「第1子」と判定

【例4: 養子縁組していない義父が扶養者のパターン】

保護者等が母で、義父(養子縁組していない)が扶養している場合

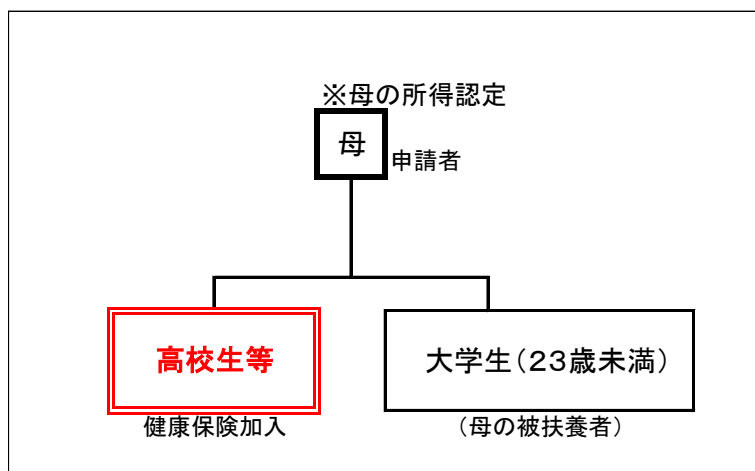


高校生等⇒第1子

※「高校生等」と「大学生」は母に扶養されていないとみなし、「第1子」と判定

【例5: 高校生等が自分の健康保険に加入しているパターン】

定時制の生徒(未成年)が就業して誰にも扶養されていない場合

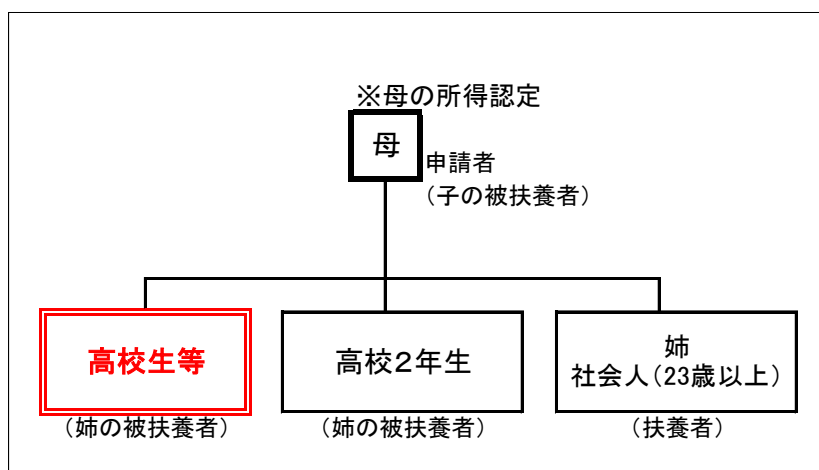


高校生等⇒第1子

※「高校生等」は母に扶養されていないとみなし、「第1子」と判定

【例6: 姉の健康保険に加入しているパターン】

保護者等が母で、姉が扶養している場合



高校生等⇒第1子

※「高校生等」と「高校2年生」は母に扶養されていないとみなし、「第1子」と判定

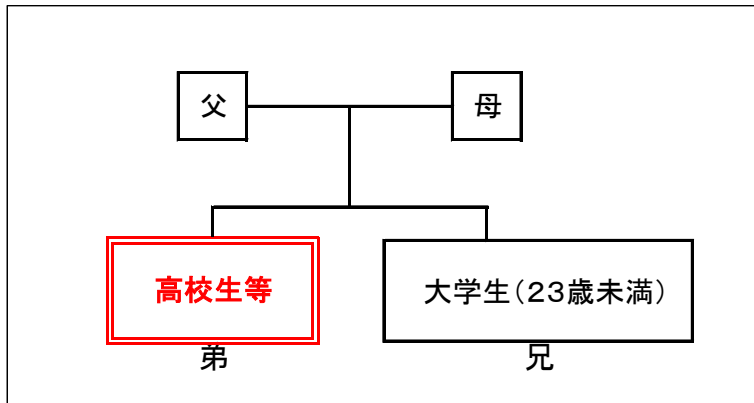
別紙B 「第2子以降パターン図」

★ 兄弟姉妹の状況による「第2子以降」の判定例

※ ①～④に該当する場合、「第2子以降」の区分となる。

※ 生徒と兄弟姉妹がいずれも保護者等に扶養されていることが前提。

① 15歳(中学生を除く)以上23歳未満の兄・姉がいる【基本パターン】

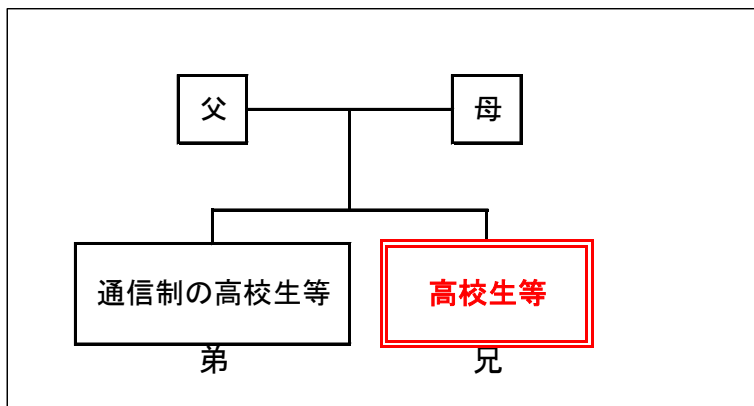


高校生等⇒第2子

(他の例)

- ・高校1年生の生徒に高3の兄がいる場合
- ・高校1年生の生徒に無職の兄(23歳未満)がいる場合
- ・高校1年生が双子の場合(兄が第1子、弟が第2子)

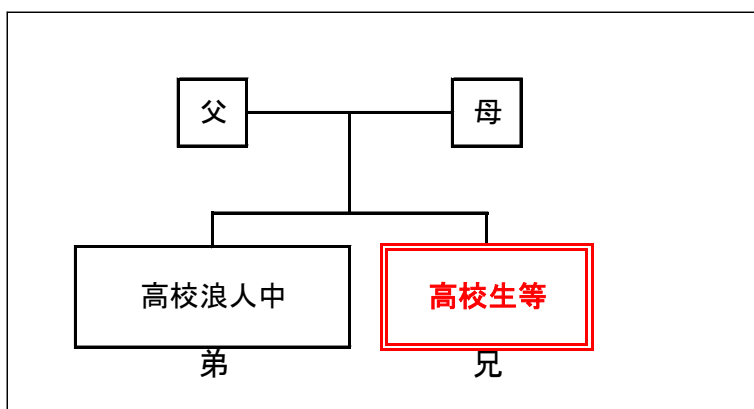
② 通信制の高等学校等に通う弟・妹がいる



高校生等⇒第2子

※ 通信制の高校生等は、弟でも単価の低い通信制の給付額となるので、兄の給付額のほうを第2子に引き上げる。

③ 15歳(中学生を除く)以上23歳未満で奨学給付金の対象とならない弟・妹がいる



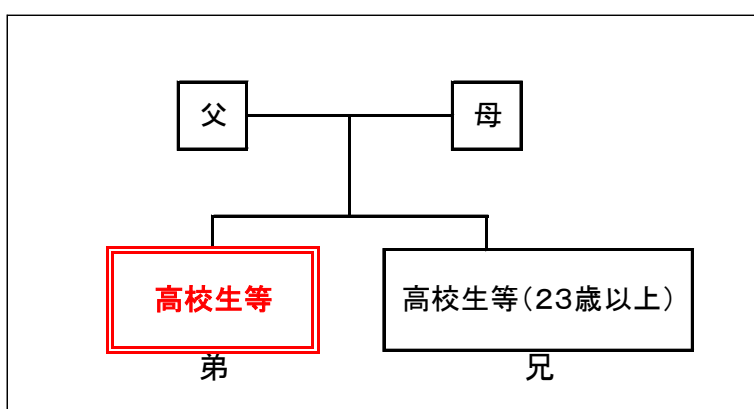
高校生等⇒第2子

※ 高校浪人等により、高等学校等に通っていない弟は、奨学給付金の対象とならないので、兄の給付額を第2子に引き上げる。

(他の例)

- ・特別支援学校高等部に通う弟がいる場合
- ・生徒本人が、一度社会人を経験して高校生になった場合などで、弟が大学生(23歳未満)の場合

④ 高等学校等に通う23歳以上の兄・姉がいる



高校生等⇒第2子

※ 兄(23歳以上)が一度社会人を経験して高校生になった場合などで、高等学校に通っている兄(23歳以上)は第1子、弟の高校生等は第2子になる。(ただし、兄も父母に扶養されていることが要件)